寒冷地形談話会通信
1997年度第7号　1998.3.7発行

1997年度第7号目次

(1) 寒冷地形談話会総会のおしらせ
(2) 2月例会報告
(3) 北海道支部例会報告
(4) 1997年度活動報告
(5) 1997年度会計報告
(6) 『日本100名山の山の自然学』について
(7) 日本地理学会「山岳永久凍土研究グループ」の新設について
(8) 『羽田野誠一地形学論集』の頒布について

(1) 寒冷地形談話会総会のおしらせ

寒冷地形談話会総会を，日本地理学会春季学術大会（1998年3月28～29日，於国士舘大学）中に開催する予定です．日時や場所については，地理学会会場にて掲示，お知らせします．ふるって御参加下さい．

(2) 2月例会報告（2月 7日，於：明治大学 参加者25名）

今回の例会は，今年度の卒論，修論生の発表会を行いました．参加者も多く，議論も活発に行われ有意義な例会となりました．また，事務局の方で作成しました研究発表要旨ですが，これもご好評をいただきました．来年度からも，このような機会を設けていきたいと思います．

今回の発表なかで，もっと詳しく話を聞いてみたいものや，さらに議論してみたいもの，今回は，参加できなかったが是非とも聞きたかったもの等がございましたら，来年度の例会で，取り上げていくつもりです．ご意見をお待ちしています．

発表要旨は分量が多いため，別メイルにさせていただきます．

(3) 北海道支部例会報告

12月13日14時より、北海道大学地球環境科学研究科にておこなわれました．研究発表4件、スライド大会での提供3件があり、参加者は約20名でした．例会後大学近くの居酒屋で、十数名が参加しての忘年会が催されました．研究発表およびスライド大会の提供の要旨は次のとおりです．

○研究発表

「大雪山での活動型岩石氷河の可能性」
石川守（北大地球環境研・院）

活動型岩石氷河は、カール底やモレーン末端部など岩屑が活発に供給されるようなところに発達した、年間数ｃｍから数１０ｃｍオーダーでゆっくりと流動している地形である．その内部には永久凍土を包含している．また、活動型岩石氷河は不連続永久凍土帯の下限を示す指標であることがヨーロッパアルプスにおいて認識されている．
一方、パルサの存在や年平均気温のデータから、大雪山の永久凍土環境は不連続永久凍土帯に属することが示されている．したがって、地形などの条件さえ整えば、大雪山でも永久凍土を包含する活動型岩石氷河が存在することが考えられ

る．大雪山中央部に位置する忠別岳周辺には、山域中では比較的規模の大きい岩塊流地形が存在する．そこで、この岩塊流地形を対象として、BTS測定や物理探査など、永久凍土の存在を明らかにするための調査を行う．これらの結果から、この岩塊流地形が活動型岩石氷河である可能性を探る．

「日高山脈での氷河史速報」
岩崎正吾（北大地球環境研・院）

現地調査の結果、複数の地点において氷河堆積物と火山灰との層序関係が明らかとなり、また明瞭な堆積構造を有する氷河底堆積物の分布も明らかとなってきた．特に日高山脈北部エサオマントッタベツ川・トッタベツ川両源流域においては、ステージ６以前とステージ４以降の氷河作用の概要が明らかとなった．今後は，新冠川源流域の七ッ沼・幌尻東カール周辺と札内川源流域の札内八・九・十の沢カール周辺の調査を進めていく予定である．なお97年におこなった七ッ沼・幌尻東カール周辺における予備調査の結果、氷河堆積物と火山灰との層序関係の概要がすでに明らかとなっている．

「カムチャツカ半島ウシュコフスキー氷冠における古環境復元の試み」
白岩孝行（北大・低温研）

96年からウシュコフスキー氷冠において氷河の掘削をおこなっている．氷冠の厚さは約210mと見積もられ、現在その27.5m深までのコアを得た．それはフィルンと氷板の互層となっており、火山灰も多数挟在していた．函養量中の氷板の割合(MFP)を調べ、当時の夏期の気温環境を推定した．ただし氷冠からは20～30年周期でサージが発生する氷河が流出しており、コアの年代を決定する作業を難しくしている．

「ネパール最東部、カンチェンジュンガ地域の周氷河・永久凍土地形」
渡辺悌二（北大地球環境研）・依田明実（北大地球環境研・院）
・今村朋信（エゾ山岳会OB　会）・貞兼綾子（チベット研究家）

カンチェンジュンガ地域は近年Conservation areaに指定されたものの、いまだ地形に関する学術的な調査がおこなわれていない．本年は予備的な調査の目的で、1カ月半ほど現地に入った．その結果、氷河後退による影響がいたるところで確認された．
具体的には、1)岩石氷河の地下2.1m以深に水の層が見られた．2)永久凍土帯下限において、地表面の土壌が滑り落ちている現象が見られた．3)古いモレーンにActiveな岩石氷河が乗り上げる現象が見られた．本調査に向けて、今後なるべく多くの人に関わってもらいたいと考えている．

○スライド大会
依田明実「ハワイの火山地形」
松本穂高（北大地球環境研・院）「カナディアンロッキーの風景」
渡辺悌二「ネパールヒマラヤのフンモック」
（文責：北大・地環研：松本穂高）

(4) 1997年度活動報告

今年度の通信もこれが最後です．そこで，1997年度の寒冷地形談話会の活動を振り返ってみたいと思います．

・ 5月例会（5月10日　於：都立大）
青山雅史（都立大・地理・院）「解析図化機による〝岩石氷河〟の大縮尺図の作成」
松岡憲知（筑波大・地球科学）「岩石氷河について－氷河説と周氷河説，スイスアルプスの岩石氷河，日本の岩石氷河の再検討に向けて」

・ 6月例会（6月14日　於：明治大）
土屋　巌「小規模氷河現象とは－鳥海山の事例を中心として－」

・ 7月例会（7月19日　於：明治大）
長谷川裕彦（明治大・非）「北アルプス南部における第四紀後期の氷河・周氷河環境の変遷」

・ 夏の学校（7月30日～8月2日）
「槍・穂高周辺の氷河地形」　案内者：五百沢智也

・ 11月例会（11月 1日　於：お茶の水女子大）
中新田育子（宮城大・事業構想）「中部山岳におけるハイマツ帯の維持機構と成帯構造」

・ 12月例会（12月6日　於：明治大）
渡辺悌二(北海道大学大学院地球環境科学)「ヒマラヤの最近の地形・地生態学研究」

今年度は，発表していただける方が非常に少なく，残念ながら，1名での発表が固定してしまいました．ほかにも反省すべき点は多々ありますが，皆様の御協力で何とかつとめることができました．例会で講演していただいた方々，夏の学校で案内をしていただいた五百沢先生，会場の準備に協力いただいた明治大，お茶の水女子大のみなさま，ありがとうございました．

(5) 1997年度会計報告

本年度の収支決算は以下の通りとなりました．本年度も黒字会計となりましたので，来年度の会費は今年度同様，1,500円とさせていただきます．なお，3年間会費未納の方は，通信の発送を停止することもあります．来年度もよろしくお願いいたします．

〈収入〉

前年度繰越し	152,937
会費収入	135,000
今年度収入合計	287,937

〈支出〉

寒冷地形談話会通信コピー・郵送	101,846
文具	4,788
例会茶菓子	3,917
来年度へ繰り越し	177,386
今年度支出合計	287,937

(6) 『日本100名山の山の自然学』について

古今書院では，今度「日本100名山の山の自然学」という本を企画しているそうです．２月例会では，今後これを寒冷地形談話会として取り扱うことが確認されました．提案として，来年度の例会では，どなたかにオーガナイザーとなっていただいて，どこかの山をテーマに15分程度話していただき，いろいろとディスカッションをするということも決まりました．また近場の山での１ないし２日（つまり週末でできる範囲）の巡検を企画しては？　との意見もありました．
この件に関しては，寒冷地形談話会総会でもご意見をうかがいたいと思います．

(7) 日本地理学会「山岳永久凍土研究グループ」の新設について

最近，複数の大学で山岳永久凍土の研究に取り組むようになったのに加えて，モレーンと岩石氷河の識別に関する大きな問題が持ち上がってきました．そこで，横の連携を緊密にして研究を進めるべく，多数の方々の賛同を得て，上記研究グループを組織するに至りました．２月の地理学会常任委員会で正式に設立が承認されましたので，皆様方のご参加・ご協力をお願いしたいと存じます．３月末の

地理学会の折には寒冷地形と共同でミーティングを開く予定です．詳しい活動内容についてはその際に相談したいと思いますので，ご関心のある方はどうぞご参集ください（氷河・周氷河地形，地すべり，高山植生ほかいろいろな分野の方々のご参加を期待いたします）．設立の趣旨・活動方針案について以下に簡単に記します．ご意見・ご希望等がございましたら，世話人までお寄せください．

グループ設立の趣旨：
（1）現在および過去の日本の山岳永久凍土帯に関する正しい認識
　－－－従来は富士山・大雪山での限られたデータからすべてが語られていた．
（2）岩石氷河とモレーン，プロテーラス・ランパートなどを区別するための基準の作成　－－－カール内の堆積地形の成因について徹底的な議論を．
（3）観測・解析手法に関する情報交換－－－機密事項を除く．
（4）機材・人員を必要とする観測での協力－－－電探・測量・地温観測など．

活動期間：４年間（1998-2001年度）を予定

活動内容：
（1）寒冷地形の例会と合同で年２回程度ミーティング開催（初夏と冬）
（2）年１回程度巡検か共同調査の実施
　　（大雪山・北アルプス・南アルプス・希望があれば海外も）
（3）個人レベルでの共同研究・調査の推進
　　日本－現在および過去におけるすべての山岳永久凍土帯
　　海外－典型的な地域（スイスアルプスなど）
　　－情報不足の地域（南極・ヒマラヤ・カムチャッカなど）

発起人：平川一臣・渡辺悌二・岩田修二・三浦英樹・松岡憲知
世話人・文責：松岡憲知　筑波大学地球科学系

(8)『羽田野誠一地形学論集』の領布について

地形評論家or判読の名人：羽田野誠一さんが亡くなられて早7年になりますが，生前の羽田野さんが書いたものなどをまとめた論集が3月中に刊行されることになりました．今のところ定価8,000円以上になりそうですが，寒冷地形の会員の方には，大幅な割引で購入できるよう手配中です．くわしくは，次の例会または次号の通信で，ご案内いたします．なお，この本は春の地理学会の古今書院の売場に展示される予定ですので，ご覧下さい．

（羽田野誠一地形学論集刊行会の１人：清水長正）

事務局：〒192-03　東京都八王子市南大沢１－１
東京都立大学地理学教室寒冷地形談話会事務局
TEL．0426-77-1111（EXT．3836）
e-mail：aoyama@geog.metro-u.ac.jp
URL：www.comp.metro-u.ac.jp/~sugimoto/kanrei/